

【 設問アプローチ 】

[16 - A]

- 問1 : ① [設問チェック] 「これはどのような意味か」とあるように、傍線部について内容説明が求められている。
また、設問文から答えを導くために押さえておくべきポイントを確認する。
→ 「このこと」 … 指示内容の把握。
- ② [本文読解] 傍線部を含む一文は「だが」で始まり、1段落と2段落が〈逆接〉の関係にあることを把握する。
また、傍線部の内容説明が、1段落までになかったことから〈論理展開の予測〉によって、2段落以降に該当する内容があることを考える。
- ③ [アプローチ] ①, ②からアプローチを立てる。
→ 指示語の指示内容である1段落と、傍線部の内容がある2段落の内容を、それぞれ〈根拠〉にする。
- ④ [判断基準] ③から、1段落の「進歩」と2段落の「恩恵による怠惰」を説明している選択肢を吟味し、解答する。
- 問2 : ① [設問チェック] 「これはどのような意味か」とあるように、傍線部について内容説明が求められている。
また、設問文から答えを導くために押さえておくべきポイントを確認する。
→ 「これは」 … 指示内容の把握。
- ② [本文読解] 傍線部の1文前と傍線部の内容から、これ以降の内容が前段落の「真に出会うことが困難になっている」、「かりそめの出会い」を「現在の文化」として一般化して論じていくことを把握する。
それによって、傍線部の内容説明がこれ以降の部分にあることを〈予測〉する。
- ③ [本文読解] 6段落の最終文に、要約の指示語である「こういう」があり、傍線部を含む同段落の内容をまとめている。→ 「雑然」というキーワードがあり、それが「不可欠の必要事となっている」と論じている。
- ④ [判断基準] ①～③から、設問では「現在の文化の特質」が何であるかを尋ねられている。
本文から「現代の様式」は、「様式の欠如」であり、「雑然」であると説明されているので、その内容を満たしている選択肢を解答として選ぶ。
- 問3 : ① [設問チェック] 「二つの体験談が、文中でどのような働きをしているか」が尋ねられている。
→ [アプローチ] 「二つの体験談」について論じられている部分が〈根拠〉になる可能性があると思って、本文読解する。
- ② [本文読解] 「二つの体験談」は、本文7, 8段落で論じられている。
7段落の一文目に「だが、歴史を通じていつもこうだったわけではない」とあることから、この「体験談」が、6段落までの「雑然」に対比される内容であることが〈予測〉される。

6段落に「このような強く統一した様式」、7段落に「様式の統一性」とあることから、やはり「雑然」と「統一」が対比された文構造であることが分かる。
- ③ [判断基準] ②を踏まえながら、7段落の最終文を見ると「現代の文化の様式の欠如に…思い知った」とあ

る。このことから、この「体験談」は「現代の特質」である「雑然性」を強調するための内容であることが分かる。

→ ① ～ ③までの内容を満たす選択肢を解答として選ぶ。

問4 : ① [設問チェック] 傍線部について、「筆者の考え」がどのようなものであるかが尋ねられている。

② [本文読解] 傍線部の「危険な結果」について、その内容は傍線部までにはせつめいされていないことから、《根拠》は傍線部以降にあることを〈予測〉する。

③ [本文読解] ①、②を踏まえて、傍線部に関する「筆者の考え」を傍線部以降の内容から読み解く。

→ 傍線部と同段落には、「筆者の危惧」が論じられている。また、続く10段落には「徹底的に見定める必要がある」、「見定めに即して」とあるように「危険な結果」に対する「筆者の対処策」が論じられている。

④ [判断基準] ③を踏まえて、筆者の「危惧」と「対処策」を説明している選択肢を吟味し、解答する。

問5 : ① [設問チェック] 「文章全体の論旨の展開」を問う問題なので、選択肢文のキーワードを先にチェックする。

② [本文読解] ①を踏まえて、論旨の展開を意識しチェックを入れながら本文を通して読解する。

③ [判断基準] ①、②を踏まえて選択肢を吟味し解答する。